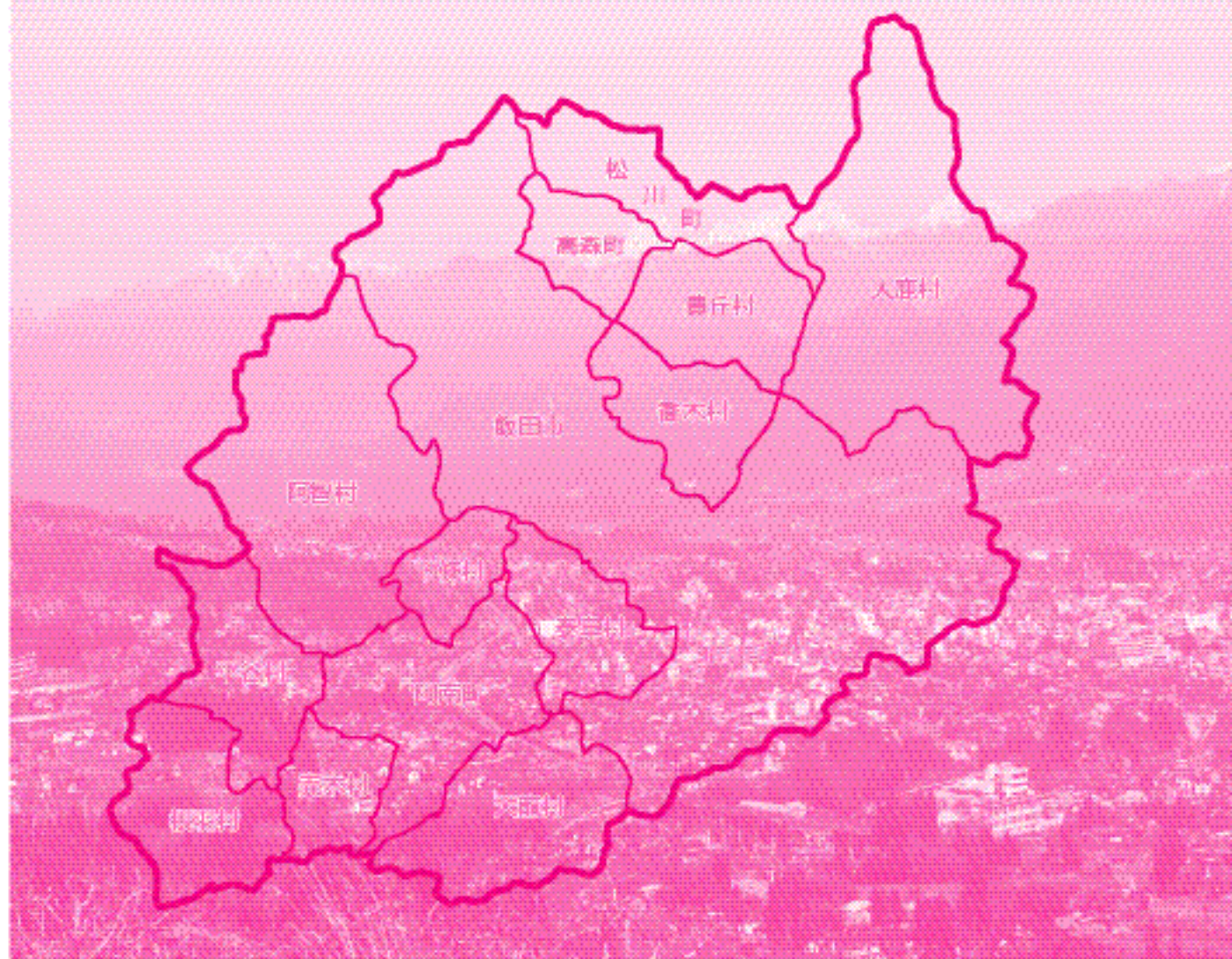


飯伊
地区

産業經濟動向

No.413
2013/8
(26. 9. 25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
経営相談所

[http:// www. iidashinkin. co. jp](http://www.iidashinkin.co.jp)

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比
電力使用量 (中電飯田営業所管内)	電灯	29,355 kWh	21.6 %	3.3 %
	動力	63,914 kWh	7.5 %	3.1 %
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	4,208 枚	△ 28.5 %	△ 22.5 %
	金額	6,242,561 千円	△ 19.3 %	△ 13.3 %
うち不渡発生状況	枚数	0 枚	(前月 0 枚)	(前年同月 6 枚)
	金額	0 千円	(前月 0 千円)	(前年同月 2,351 千円)
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	14 件	(前月 8 件)	(前年同月 6 件)
	飯伊	1 件	(前月 1 件)	(前年同月 1 件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(7月)		69 戸	28.1 %	25.9 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (飯田公共職業安定所管内)(7月)		0.89 倍	(前月 0.78 倍)	(前年同月 0.71 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,005 台	△ 22.5 %	△ 9.6 %
	中古車	533 台	△ 26.8 %	△ 4.5 %
軽自動車新規登録台数 (長野県軽自動車協会)(7月)	新車	4,975 台	20.9 %	△ 5.3 %
	中古車	819 台	△ 16.6 %	5.3 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	136,451 台	8.0 %	0.6 %
	出	139,698 台	8.8 %	0.8 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	91,674 台	7.4 %	0.7 %
	出	87,187 台	6.3 %	△ 0.1 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	20,277 台	8.4 %	0.7 %
	出	21,014 台	38.0 %	2.1 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	55,486 台	6.9 %	0.3 %
	出	53,037 台	16.6 %	2.2 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		164 件	△ 16.3 %	△ 1.2 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		15 件	(前月 8 件)	(前年同月 12 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	40,539 人	61.4 %	4.2 %
	飯田～名古屋	19,514 人	31.1 %	2.2 %
	飯田～長野	10,679 人	9.1 %	△ 0.1 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,627 人	△ 3.4 %	△ 3.3 %
	右回り	3,929 人	3.8 %	8.0 %

〈目次〉 概況 P3 製造業 P4 建設業 P6 商業・サービス業 P7 しんきんグローバル P8
雇用の状況 P12 しんきん「相続・事業承継 定例無料相談会」のご案内 P12

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

概 況

製造業

8月の製造業の景況判断指数(DI)は、マイナス8.6と、前月より18.9ポイント下降。翌月予測はプラス20.0で、前月から横ばいだった。

半導体、液晶関連部品、リードリレーなど電気・精密機械器具の受注は、前月比減少～横ばい。半導体、液晶の製造装置向け部品の受注は、業者により増減まちまち。産業機器関連部品では、受注は、前月比業者により増減まちまち。景況感は、悪化ないしは横ばいとの声が多いが、好転している業者も一部見受けられた。建築用金属製品では、受注面は「大きな変化はない」ものの、先行きは増加を見込んでいるという。自動車向け部品では、プレス加工品や金型など金属部品の受注、販売は、前月比、前年比とも減少との声。リレーや制御基板など電装品の販売は、前年比やや増加との声が聞かれたが、こうした業者にあっても景況感の好転には至っていない。航空機関連は「引合増」との声。小型電磁機器では、受注は、前月比やや増加も、前年比は減少との声が寄せられた。FA関連モーターでは、「全体の受注は少しずつ改善している。産業機械向け受注はやや上向き。車載向けは横ばいで推移している」との声。モーター制御向け基盤実装関連の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が寄せられた。光学機器や同部品、レンズの受注は、前月比業者により増減まちまち。目下の景況に自信が持てないとする声が多い。健康機器、自動認識装置周辺機器や同部品など電器、電子製品の販売の前月比は、やや増加との声が多い。時計の生産では、受注は当月大きな動きはなかった様子も、「やや回復の見込み」との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、概ね横ばいの様子。水引製品の売上の前月比は、減少～横ばい。減少したとする業者にあっても「入荷の遅れ」が原因で、「次月以降取り戻せる見込み」という。漬物の売上は、前月比概ね横ばい～やや増加、前年比はやや減少。

建設業

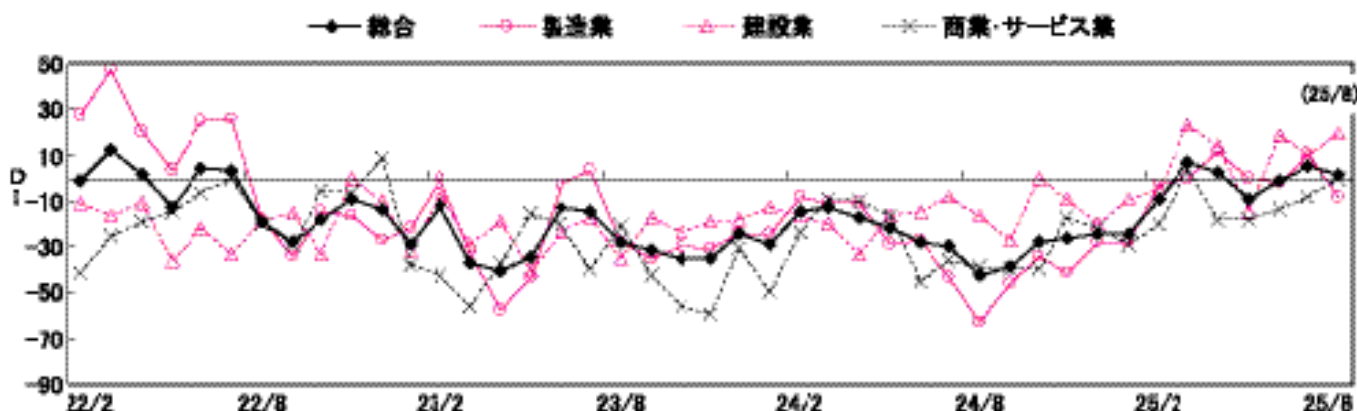
8月の建設業の景況DIは、プラス19.0で、前月より9.0ポイント上昇。翌月予測DIも、プラス20.0で、前月より4.2ポイント上昇している。

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約19.6億円で、前月比39.5%減少も、前年比は34.3%増加している。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減まちまちも、増加した業者が多数を占める。民需の住宅着工戸数(7月)は73戸。前月比28%増加、前年比も26%増加している。当月の調査先業者の受注残高の前月比は、業者により増減まちまちも、増加したとする業者が多い。

商業・サービス業

8月の商業・サービス業の景況DIは、0.0と、前月より8.0ポイント上昇。食料品の売上は、前月比やや減少～横ばい。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少との声が寄せられた。家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともやや増加したという。家電の売上は、前月比、前年比ともに増加の様子。衣料品の売上は、前月比、前年比とも業者により増減まちまち。OA機器の売上は、前月比減少、前年比増加という。娯楽用品の売上はやや増加との声。家具の売上は前月比横ばいという。土産物関連の売上は前月比横ばい～増加。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車で前月比23%減少、前年比10%減少。7月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は前月比5%増加、前年比も2%増加。自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比ともにやや減少との声。市内料理店の売上は、前月比、前年比とも業者により増減まちまち。市内ホテル、旅館の売上の前年比は、減少～やや減少。屋神温泉の来客数は、宿泊が前年比5%増加。日帰りは前年比2%減少したという。天竜舟下りの売上は前月比やや増加という。タクシーの売上は、前月比、前年比ともに横ばいとの声が聞かれた。

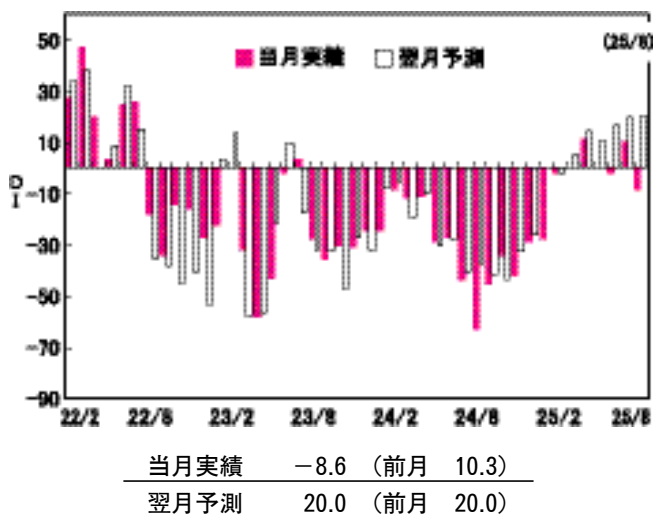
飯伊地区景況DI (本誌調査)



製造業

地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月の製造業の景況判断指数（DI）は、マイナス8.6と、前月より18.9ポイント下降。翌月予測はプラス20.0で、前月から横ばいだった。

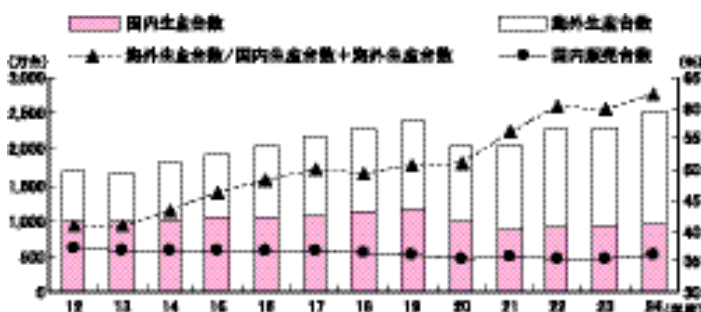
機械加工製造業

（一社）日本自動車工業会によると、平成24年度の国内生産台数は955万台、一方、海外生産台数は1,588万台だったという。これによると、国内生産台数と海外生産台数の合計に占める海外生産台数の割合は62%となる。この割合は、下記グラフのように年を追うごとに上昇している。

一方、国内販売台数と、国内生産台数の推移をみると、国内生産台数は、国内販売台数の推移とほぼ同様に推移している。

こうしたことから、自動車メーカーは、国内販売に見合う国内生産を維持しつつ、輸出向け国内生産を徐々に海外生産に切り替えつつあることが窺える。

自動車の国内生産台数と海外生産台数の推移



（資料：JAMA（一社）日本自動車工業会）

半導体、液晶関連部品、リードリレーなど電気・精密機械器具の受注は、前月比減少～横ばい。「中々回復の兆しが見えない。7月に比べ大幅に落ち込んだ」との声が聞かれた。「当月は客先の夏休み、盆休みで受注が少ない」ことも理由の一つという。一部に、前年比が増加しており景況感が好転した業者も見受けられたほか、「新規受注があり、担当部門は忙しい」との声も。販売面では、前月比業者によりまちまちだが、

減少との声が多い。先行きに関しては、当月の反動もあってか、多くの業者が増加を見込んでいる。「パート勤務をお願いした」「休業なしで推移。先行き人員不足も考えられる」などの声。一部に原材料、資材価格がやや上昇との声が聞かれた。

半導体、液晶の製造装置向け部品の受注は、業者により増減まちまち。やや増加したとの声も複数あるが、こうした業者にあっても景況感の好転には至っていない。「調整が続いている。最低線の生産。小ロットの積み上げはあるが、大口の受注が見込めない」「開発案件は多い。量産品は徐々に回復するも、数か月先は読めない」などの声。原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「一部上昇」との報。製品価格が下降基調にあるとの声が複数聞かれた。雇用面では、「1名補充」「能力のある人補充予定」「従業員の高齢に伴う入替予定」などの声が寄せられた。設備面で積極的な声は聞かれなかった。

産業機器関連部品では、受注は、前月比業者により増減まちまち。「ロボット向け受注減」「設備向けの動きが思ったほど動かない」「客先によってはムラが多い」「小物部品に動きはあるが大物が動かない」「マスコミの報道と現場の状況とではギャップがある。小企業にはアベノミクス効果が回ってこない」など、景況感が悪化しないしは横ばいとの声が多いが、「工作機械関連低水準ながら回復傾向」との声や、「全般に忙しい」など景況感が好転している業者も一部見受けられた。こうした業者では「複数名増員。今後も増員を予定」という。「秋口から動くとの予測はあるが、光が見えてこない」など、先行きに自信が持てないとする業者は多い。「ものづくり補助金を利用」など、設備面で増強したとの声が複数聞かれた。「鉄材じわり上昇」など原材料、資材価格が上昇したとの声は多い。製品価格については複数の業者から「値引き要請が多い」など前月に比べ下降しているとの声が聞かれたが、こうした業者の中に前年比では上昇している業者も一部見受けられた。

建築用金属製品では、受注面は「大きな変化はない」ものの、「例年この時期から少し上昇」することもあり、先行きは増加を見込んでいるという。売上は「首都圏中心に動きが出てきた」こともあって増加しているとの声。原材料価格について「近々に鋼板が大きく上昇するのでは」との声。製品価格は「まだまだ改善には至っていない」という。

自動車向け部品では、プレス加工品や金型など金属部品の受注、販売は、前月比、前年比とも減少という。「試作品が少ない。部品数量も減少」「大幅なマイナスは当社としては想定内だが、どこまで落ち込むかが問題」などの声が聞かれた。リレーや制御基板など電装品の販売は、前月比やや増加との声が聞かれたが、こうした業者にあっても、前年比は概ね横ばいの様子で、景況感の好転には至っていない。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。

航空機関連は「引合増」との声。

小型電磁機器では、受注は、前月比やや増加も、前年比は減少との声が寄せられた。先行きは、弱含んでいるとの声もある。原材料、資材価格や製品価格に大きな動きは見込まれていない様子。雇用面で積極的な声は聞かれなかった。設備面で「若干」との声も聞かれた。

FA関連モーターでは、「全体の受注は少しずつ改

善している。産業機械向け受注はやや上向き。車載向けは横ばいで推移している」との声が寄せられた。販売面では「当月は稼働日数が少なく、販売高はやや減少」という。原材料、資材価格が上昇基調にある一方、製品価格は下降しているという。モーター制御向け基盤実装関連の売上は、前月比、前年比ともやや増加との声が寄せられた。先行もやや増加を見込んでおり、景況感も好転しているという。

光学機器や同部品、レンズの受注は、前月比業者により増減まちまち。しかし、増加したとする業者であっても「伸びる方向の話は少ない。仕事がない時期を長く過ぎて、先に対する不安にも慣れっこになった感あり。なんとか安定して前年並みの売上が確保できていることはありがたい」との声が聞かれたほか、「5、6月に予想したより悪い。多少良くなってきたかと思ったが、思わしくない。もっとも、8月から半年間落ち込んだ昨年よりは良い」「年前半の鼻息の荒さがなくなってきた感。予定が先延ばしになっているのも気になる」「光学業界は良くない。全体的に良くない」など、目下の景況に自信が持てないとする声が多い。こうした中において、一部の業者から雇用面で増員したとの報が寄せられたほか、設備面でも、複数の業者で増強している様子。一部に、当月、原材料、資材価格が上昇したとの声。製品価格に大きな動きはなかった様子も、前年に比べ若干下降との声も聞かれた。

健康機器、自動認識装置周辺機器や同部品など電器、電子製品の販売の前月比は、やや増加との声が多い。受注面では、前月比業者により増減まちまちだが、減少したとする業者であっても前年比は増加しているという。「新規顧客からの引合増加」との声も聞かれ、こうした業者では景況感も好転している。

時計の生産では、受注は当月大きな動きはなかった様子も、「やや回復の見込み」との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上の前月比は、概ね横ばいの様子。「お得意様も増減いろいろで、トータルで増減なしというところ」「注文増なし。デフレもあって売上も伸びない」「国内販売は低迷しつつあるのでは」など景況感の好転には至っていないとの声が大半を占める。前年比は、「前月、前年比が増加した反動か」やや減少したとの声や「昨年とほぼ同じ」などの声が寄せられた。原材料、資材価格がやや上昇したとする業者が複数。設備面で、複数の業者から「検討」「実施予定」など先行き積極的な声。雇用面で積極的な声は聞かれなかった。

水引製品の売上の前月比は、減少～横ばい。減少したとする業者であっても「入荷の遅れ」が原因で、「次月以降取り戻せる見込み」という。もっとも、「主たる仕入先の中国で、人手不足などから従来のように品が出来にくく、対策が必要」との報も。「消費増税など先が読みづらい」中、「商品構成をスリム化し利益を確保できるよう、従来品の見直しを更に進める」「販売が減少する中、材料の値上げがあり、1品あたりの利益を確実にしたい」などの声。次月以降、正月用品の製造に向け「パートを雇用予定」との声が寄せられた。「水引に施す新しい加工のテストが進んでおり、製品への利用に展望が開けた。『棒ほど願って針ほど叶う』。努力次第で道は開く」との声が寄せられた。

漬物の売上は、前月比概ね横ばい～やや増加、前年比はやや減少。「全般的に悪い。同業でも良い話は聞かれない」などの声。「大手取引先の納入価格が安い」

との報が寄せられる中、「食品等の値上がりが報道されているが、その影響がどのような形になるのか見えない」との指摘が聞かれた。「早くも秋の気配が感じられる。消費が上向くことを期待したい」との声が寄せられた。雇用、設備面で積極的な声は聞かれない。

その他製造業

食品関連包材の売上は前月比横ばいとの声。先行きはやや増加を見込んでいるという。原材料、資材価格に当月大きな動きはなかった様子。

印刷、出版関連の売上は、前月比業者により増減まちまち、前年比やや減少。「休日が多く、業界では8月は最悪の月」だが、「例年、当月は大口の受注があるため前月比微増」との声も聞かれた。しかし、こうした業者であっても「それを含めても平凡な月。むしろ得意先の細かい部分の注文は、明らかに減っている」という。先行きは「来月の受注は多い」など増加を見込む声も聞かれた。「複数の取引先破綻。痛手は小さいが、取引に慎重になる」との報が寄せられた。退職に伴う人員の入替や新規募集、設備の入替などの声が複数聞かれた。

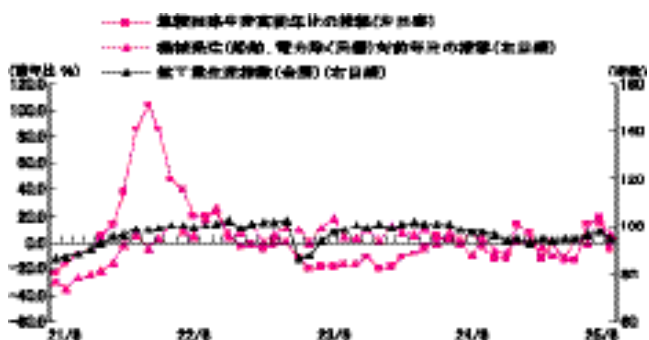
衣料品製造の受注は、前月比やや増加、先行きも増加を見込んでいるとの声も寄せられた。しかし、「冬ものの備蓄がない上に、7月からの冬ものの生産が落ち込んでいて、9～11月の生産が多すぎる。海外も休日の関係で生産が望めない。仕事がかたし切れず、受注を受けられない状況が続くそう」といい、景況感の好転には至っていないという。こうした業者では雇用面の不足感が続いている。原材料、資材価格の上昇が続いている様子。

住宅機器、オフィス家具や店舗用什器などの家具の受注、販売は、前月比、前年比ともに減少との声も寄せられた。「非常に厳しい状況。ものの動きが止まってしまったようだ」との声。「大手ブランドの協力工場に非常に厳しい連絡があり、関係各社は受注確保にやっきになっている」との報が寄せられた。

【企業からのコメント】

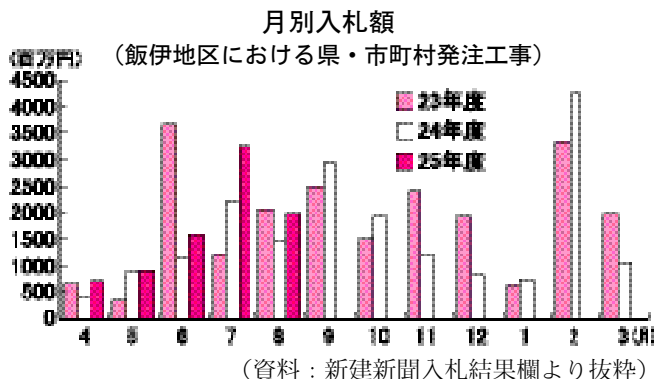
- ★仕事量の減少は否めない。同業も苦労していると思う。
《印刷業》
- ★地元製造業は全体的に良くないと思う。次年度の新卒採用に意欲的な声が聞かれない。
《光学機器、レンズ製造業》
- ★アベノミクスは逆効果ばかり。良いところなし。
《機械部品製造業》
- ★東京オリンピックの経済効果に期待したい。
《金属加工業》
- ★自動車向け部品は動きが良いとの声を聴くが、他は良い話が聞こえてこない。
《機械部品製造業》

集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



建設業

月別入札額



当月実績	19.0	(前月 10.0)
翌月予測	20.0	(前月 15.8)

官公需

当地区における、当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約19.6億円で、前月比39.5%減少も、前年比は34.3%増加している。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減まちまちも、増加した業者が多数を占める。減少したとする業者にあっても、「公共事業発注増」「低調ながら昨年より良い」といい、多くの業者で「仕事は出だしている」「元請、下請引合増」「25年度の仕事がやっと出始めた」「今期は前期より受注を伸ばしている」などの声。そうした中、一部に「景気対策に救われているが、決算状況はどれも厳しいのでは」との声も。

特に土木工事に関し、「国の発注件数が増加」「国発注物件を受注している業者は受注残高を伸ばしている」一方で、「県、市町村工事発注開始。低調ながら増加傾向」「県、市町村は徐々に」「県や市町村工事に特化した業者は受注残高が伸びない」など、発注元により発注の迅速さが異なる点を指摘する声は多い。こうしたことから、「元請の場合、国の工事を受注できる業者はよいが、県、市町村工事の元請は受注に苦戦。営業方針を下請に特化した業者の方が仕事量はある」との声も聞かれた。

また、建築工事に関し、「発注量は増えているが、元請施工実績、技術者要件などの入札要件付の工事が多く、大手業者は対処できるが、中小は厳しい」という。

こうした中、「各社人員を削減してきており、対応が一杯の様子。かといって増やすこともままならない」など雇用面の不足感を指摘する声は多く、特に「専任技術者」「技術者、技能者」「若手施工職員」「現場技術者や鉄筋工など特殊作業工」などの不足感が著しい様子。

引き続き、「鉄製品」「石油製品」や「舗装を中心とした維持修繕工事増加に伴いアスファルト合材」などについて、「高い」「上昇中」「強含み」という。リニアやオリンピックがあって、「高騰しそうで怖い」など更なる上昇を注視する声も複数聞かれた。

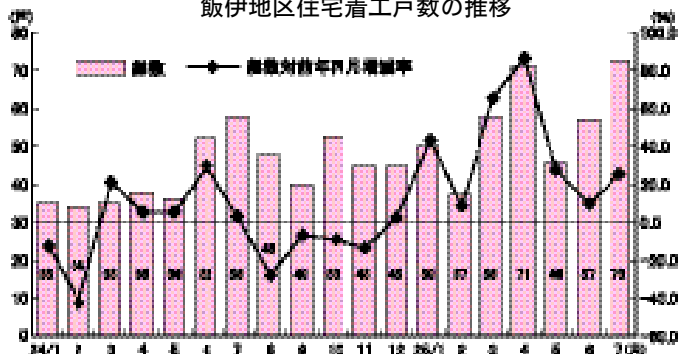
民需

当地区の7月の住宅着工戸数は73戸。前月比28%増加、前年比も26%増加している。

当月の調査先業者の受注残高の前月比は、業者により増減まちまちも、増加したとする業者が多い。住宅について「新築、リフォームともまずまず」「やや上昇気流」「新築1件」などの声。民間工事については、「まだまだ」「増えてはいる」などの声が聞かれた。ここでも「今はまだ見えないが、年末、年度末に職人さんの奪い合いが起きるのでは」「大型物件の発注が多

く、大工さんや、型枠、内装の職人さんが足りない」などの声が聞かれ、こうしたこともあってか、工事単価の上昇を見込む声も複数聞かれた。当地区の住宅着工戸数の総数の前年比増減率の推移をみると、平成25年は年初から前年を上回っている。

飯伊地区住宅着工戸数の推移



建設資材

建材、建設資材、塗料の売上は、前月比業者により増減まちまち。「乗用車関連で、一部の塗装が増大」などの声。先行きについて「消費増税の反応が今月に入りやっと感じられる。次月以降結構忙しいのではないか」というものの、仕入価格の上昇が見込まれており、「とても心配」という。また、「品物によっては欠品も」など、需給が引き締まっている様子が見え始める。

鋼材の売上は、前月比やや減少との声が寄せられた。「盆月で稼働日数が少なかった」ことも理由の一つだが、「なかなか上向きの業種が出てこない。また、業種内でも差があってパツとしない。一部に期待感が持てる向きもあるが、実際どうなるか不明」という。鋼材価格は、「需要低調で横ばいで推移。先行きメーカーの事情もありそう」との声。

生コンの売上は、「盆月」だったことから前月比減少～やや減少。景況感地区によって異なり、「当地域は細かい工事から大口まで活気づいてきた。増員もした」との声の一方、「新たな工事発注もなく低迷」との声も。但し、こうした業者にあっても「住宅を始め市役所工事などもあり増加傾向」という。

骨材等の売上の前月比、前年比は業者により増減まちまち。「5月以降前年比を下回っている。市役所工事の進行に伴い出荷増を期待」「地域差はあるが全体に上向きの時期に入ったのでは」などの声が寄せられた。

【企業からのコメント】

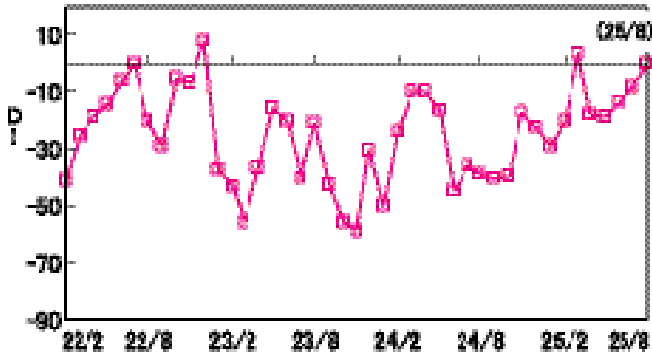
- ★リニア中央新幹線は、すぐの仕事ではないが、期待は大きい。 《骨材販売業》
- ★リニア中央新幹線の飯田駅が上郷にできるが、上伊那方面からの利用者に対する交通計画や、今後の町づくりが重要になってくると思う。 《建設業》
- ★好調な地元にあっても、仕事のない業者も見受けられる。 《生コン製造業》
- ★タンパカーが不足。今後更なる不足が予測され、深刻な事態になるのでは。 《骨材販売業》

住宅建築確認申請受付状況（※本誌調査による概数）

8月	○下伊那地方事務所
	新築 14件 (前年 8件)
	増築 6件 (前年 2件)
	○飯田市役所分
	新築 23件 (前年 21件)
	増築 3件 (前年 3件)
	※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業

商業・サービス業DI



当月景況DI 0.0 (先月 -8.0)

商況

食品の売上は、前月比やや減少～横ばい。「お盆過ぎから急に涼しくなったこともあってか、お客様が減少。時期的に消費を控える傾向にある他、必要なものを必要なだけ買う傾向がある」「新盆家庭の利用が少ない他、中元も少なく全体的に低迷」などの声が寄せられた。

【青果卸売市場】

売上は、前月比、前年比ともに増加したという。野菜は「各地で局地的な豪雨と猛暑の影響で月後半の野菜の価格は高騰した。特に胡瓜は平均価格で8月としては近年にない高値となり、野菜全体では、入荷量1%減で価格は28%高。価格が昨年より安かった主力品目は茄子・長いも・玉葱・さつま芋」という。果実は、「干ばつの影響もあり、主力のりんご、梨は小粒傾向、つがるは入荷量で45%増、幸水はほぼ前年並み、価格はりんごで7割、梨で2割強の安、桃も比較的終了が早く、果実全体では、入荷量3%減で価格は4%安」との声。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少との声が寄せられた。

家事用品卸の売上は、前月比、前年比ともやや増加したという。「殺虫剤等季節商品が良かった」との声が寄せられた。

家電の売上は、前月比、前年比ともに増加したという。「暑さ厳しく家庭用の小型エアコンが前年比30%の伸び。LED照明、エコキュートなどは好調を保っているが、その他の家電品は低迷が続いている。業務用では大型エアコンが伸びない一方、太陽光発電は関心が高い」との声が寄せられた。

衣料品の売上は、前月比、前年比とも業者により増減まちまち。「円安の関係で、輸入商品が少しずつ高くなっている」との声が寄せられた。

OA機器の売上は、前月比減少、前年比増加したという。「ウィンドウズXPのサポート終了を控えているが、まだパソコン更新の商談は少ない」との声。

娯楽用品の売上はやや増加したという。「夏休みのため子どもの来店が増えた」との声が寄せられた。

家具の売上は前月比横ばいという。

土産物関連の売上は前月比横ばい～増加。

松本自動車検査登録事務所管内の**自動車新規登録台数**は、新車で前月比23%減少、前年比10%減少。一方中古車は、前月比27%減少、前年比5%減少となった。7月の県全体の**軽自動車新規登録台数**は、新車は前月比5%増加、前年比も2%増加、中古車は前月比6%増加、前年比は23%増加した。

自動車販売、整備の売上は、前月比、前年比ともやや減少という。「当月は前年比マイナスであったが秋に向かって期待している」「一般ユーザーは景気上昇が感じられない。車両購入意思が感じられない」などの声が聞かれた。

サービス業

市内料理店の売上は、前月比、前年比とも業者により増減まちまち。「猛暑のため、野菜、魚ともに仕入単価やや上昇」「消費税増税の論議のあおりからか、宴会が夏場の閑散期と重なり全体的に静かだった」「当社は、暑すぎて売上げ減。新メニューなどで変化を追求する」等の声。

市内ホテル、旅館の売上の前年比は、減少～やや減少という。「アベノミクスで景気上昇が伝えられるが、飯田地区では宴会等は漸減。巷に言われる景気の回復は、サービス業界では春は遠い」との声が寄せられた。

昼神温泉の来客数は、宿泊が前年比5%増加。日帰りは前年比2%減少したという。「夏休みはナイトツアーや夏祭りのバックツアーのお客様が増えた」との声や「燃料の値上げによりお客さまもマイカーでなく電車・バスの利用が目立った。昼神温泉は地理的に不便なため、できるだけ駅やバス停までの送迎を行っている」との声が寄せられた。

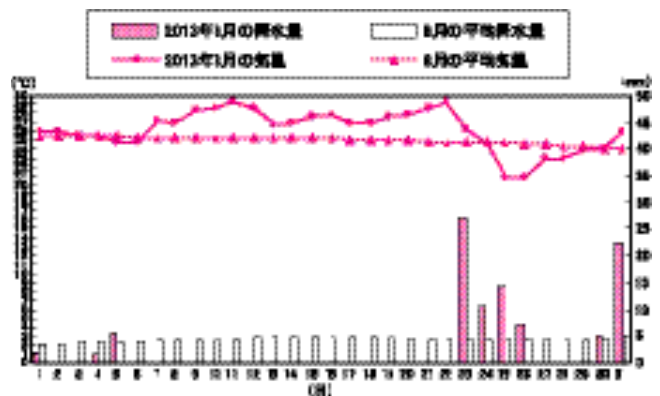
天竜舟下りの売上は前月比やや増加という。

タクシーの売上は、前月比、前年比ともに横ばいという。「猛暑のせいか昼間のお客様は前年並みも、夜間のお客様は依然減少。今後も厳しい状況は変わらないのではないか」「厳しい環境の中で共有できる方策を考える必要がある」との声が寄せられた。

【企業からのコメント】

- ★東京五輪決定が景気動向を良くして、消費動向が改善の方向に向かえば良いと思う。 《食品》
- ★都会と地方の景気の格差、飯田でも市内と他地域の格差等が広がりつつある。 《市内ホテル、旅館》

飯田の気温と降水量



郷土の資源 佐倉神社 (宗吾霊堂)

～ 日本で最も古い佐倉神社が、なぜ飯田にあるのか？ ～

しんきん南信州地域研究所
主席研究員 主席研究員 吉川芳夫

(敬称は省略させていただきました。)

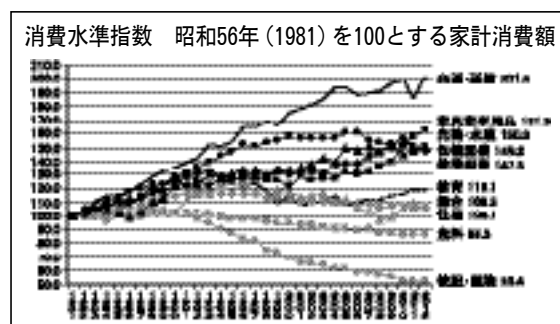
〈“もの”の価値より“こと”の価値〉

リニア中央新幹線では、飯田駅の位置などルートの詳細が発表され、名古屋までの2027年開通が現実のものになってきました。オリンピック・パラリンピックの2020年東京開催決定もあり、あるいは開通時期が更に早まるかもしれません。

この画期的な公共交通機関に対し、地域発展の大きな期待が寄せられている一方、ストロー現象による衰退も心配されています。人がこの地域に来ることの必要性を創出できれば地域の発展につながるし、それができなければ単なる通過駅になってしまうでしょう。

「この地域には何があるの？」と問われたとき、「たいした“もの”はないなあ…」と答えに窮することも多いのではないのでしょうか。確かに大規模な史跡、神社仏閣やレジャー施設といった、従来の見方による“観光資源”は見劣りするかもしれません。しかし、価値観は変化してきています。

家計消費における消費の変化(消費水準指数グラフ 右図)を見ると、生活の基礎的支出である「衣」「食」「住」より、旅行や通信、健康関係、教養娯楽など、“もの”でない“こと”への消費が大きくなっています。また、基礎的支出においても、衣料ではよりファッションブルなものに、食品でも、米など穀物、魚、肉、野菜などの素材よりも、加工された調理食品や外食などに対する支出が増えています。このことから商業界では「“もの”を売るのではなく“こと”を売れ」と言われています。



(総務省：家計調査年報の消費水準指数を加工)

当地域には、日本で最も古いのではないかとされる佐倉神社が残っています。今回は、その“こと”を取り上げます。

〈「中平歴史研究会」による当地域の佐倉信仰の発掘〉

平成18年、飯田市鼎の「中平歴史研究会」(*1)が、当地域の、11か所に上る佐倉神社(宗吾霊堂)を踏査、関係者に話を聞き文献を調べて「佐倉信仰を考える」の小冊子にまとめ、発表しました。その後、阿南町や平谷村にも神社(祠)があるとの報が研究会に寄せられていて、小祠(小さなほこら)も含めれば当地域には相当数が祀られているものと思われます。

“宗吾”は、江戸時代の義民として知られる 佐倉惣五郎(本名 木内惣五郎)の、戒名「宗吾道閑居士」に因んだ尊称で、千葉県成田市鳴鐘山東勝寺の宗吾霊堂に祀られています。仏様が神様となっているもので、この寺には、飯伊全体の観光客数にほぼ匹敵するだろう、年間250万人の参詣者があるとされています(*2)。

〈佐倉義民伝概略〉

江戸時代初期、下総の国(現：千葉県成田市)佐倉藩の百姓は、凶作と厳しい年貢取り立てに困り果て、一揆を起こそうというほど追い詰められていました。しかし、一揆を起こすと一味全員が処罰されてしまいます。そこで、名主の木内惣五郎は、単独で、佐倉藩に救済を訴えるも悉く退けられ、最後の手段として、上野寛永寺に参詣する四代将軍の徳川家綱に救済を直訴しました。願いは叶い、藩主は3年間の免税を命じ、さらに、その後、幕府からの救い米として二割の年貢減免を受けることができました。

しかし、將軍直訴は重罪のご法度。面子を潰された佐倉藩主は厳しい処罰を行います。惣五郎は磔、惣五郎の幼い男子達も打ち首に処せられたのでした。数年後、時の佐倉藩主 堀田正信は、後述のとおり改易（領地没収）、蟄居（外出禁止の謹慎）の処分を受けますが、これも惣五郎の祟りか正信が乱心したためと言われるようになります。この伝説は、嘉永年間（1848年～1854年）に歌舞伎に上演されて評判を呼び、以後も芝居や講談、近世では映画にもなり、広く知られるようになりました。

芝居等では、義民はより義民らしく、敵役はより悪者らしく脚色され、事実と異なることも多いものです。例えば、事件は、堀田正信藩主時代の承応元年（1652年）のこととされていますが、正信の父 堀田正盛が藩主だった正保2年（1645年）に起こったとする記録が複数あり、この説が正しいようです。

〈堀田正信と飯田藩〉

芝居では敵役の堀田正信ですが、生一本で正直な人とも思えます。

信州松本藩から佐倉藩に移封された正信の父 堀田正盛は、老中、大老として三代將軍徳川家光の側近中の側近でした。佐倉藩11万石は、江戸の東を守る要衝の地に置かれ、譜代大名が入封し、多くの歴代藩主が幕府の要職を務めた重要な藩です。正盛は、家光が死去した際、殉死（主君のあとを追って自殺すること）しています。

正信も、父親と同じように幕閣として將軍に仕えることを願っていましたが、万治3年（1660年）、時の老中に幕政批判の文書を送ります。その内容は、①世の困窮は、失政によるとして幕閣を糾弾、②困窮している旗本の救済に佐倉藩11万石を差し出しても構わない、③自分なら、將軍が逝去すればただちに殉死する（老中の一人松平信綱が、父同様に家光の寵愛を受けながら殉死しなかったことを暗に批判した）というものでした。

当然ただでは収まらず、改易蟄居の処分が下り、飯田藩にお預けの身となります。時の飯田藩主 脇坂安政が、堀田正盛の次男で、脇坂安元の養嗣子となっていたため、正信は、実弟が藩主を努める藩で蟄居の処分に服することとなりました。

飯田における正信は、お預けの身とはいえ、元大名。まして実弟の藩でもあり、佐倉から身の回りの世話に家臣の大野木道長を伴い、それなりの暮らし向きだったようです。

飯田城絵図に「上野介様御座所（上野介とは正信のこと）」と記された場所（現：飯田市立追手町小学校の敷地内）があり、正信が城域内に居たことが分かります。飯田に在住した12年間に、正信は5人ほどの子を生みますが、寛文3年（1663年）、寛文5年（1665年）に相次いで息女が夭折する悲運に見舞われます。この夭折した二人の息女の墓地は、今も飯田市江戸町の正永寺に残されています。



正永寺に残る、正信息女の墓石2基

寛文12年（1672年）、飯田藩主 脇坂安政の播州龍野（現：兵庫県たつの市）移封に伴い、正信は母親の実家である若狭小浜藩（現：福井県小浜市）12万3千石の酒井家にお預け替えとなり、米2千表が与えられていました。

延宝5年（1677年）、正信は、蟄居の身にもかかわらず、將軍家綱の跡継ぎ誕生を祈願するため京都に赴き、清水寺や石清水八幡宮を参拝する事件を起こします。その結果、阿波徳島藩（現：徳島県徳島市）5万石蜂須賀家に預けられ、座敷牢暮らしを余儀なくされました。

その3年後の延宝8年（1680年）、將軍家綱の逝去を知った正信は、刀が取り上げられていたため鋏で喉を突いて自害。49年の生涯を終えました。

〈惣五郎の名誉回復と佐倉信仰〉

一方、木内惣五郎のその後は、出羽山形藩から佐倉藩に移封された堀田正亮（堀田正信、脇坂安政の実弟 正俊の子孫）により、宝暦2年（1752年）、百回忌が営まれ、「宗吾道閑居士」が贈られました。さらに寛政3年（1791年）、藩主 堀田正順から「徳満院涼風道閑居士」の院号と石塔が寄進され、こうして惣五郎の名誉が回復されます。また、文化3年（1806年）、惣五郎の子孫は、藩主 堀田正時から12.5俵相当の供養田が与えられ、手厚い保護を受けることとなりました。

歌舞伎に上演された嘉永年間以後、惣五郎の事跡は広く全国に知られていきます。義民として人気が高まるにつれ、心情を同じくする農民に迎えられ、全国で佐倉神社（宗吾霊堂）が建立されるようになりました。

当地方に残る佐倉神社の多くも、主として農民の救い神として祀られています。近郊の小学校で遠足の目的地だった飯田市北方の「さくらさま（佐倉霊堂）」は、昭和の大恐慌のときに農民救済を願って創建されたものです。また、飯田市龍江にある大願寺の「宗吾大明神」は、安政6年（1859年）の南山一揆（*3）のとき、事前に佐倉を訪ねて惣五郎の顛末を調べ、農民の拠り所として宗吾を祀ったもので、古い部類になります。

〈最も古い佐倉神社〉

「中平歴史研究会」は、松川ダム左岸の飯田市上飯田字實山にある松川入佐倉神社（右写真）が、「日本で最も古い佐倉神社ではないか。」との貴重な指摘をしています。総本社ともいべき成田市の鳴鐘山東勝寺宗吾霊堂のウェブサイト「長い間、宗吾様をまつる堂宇（小屋、建物）の建立は許されませんでした…」とあるように、惣五郎を祀る堂、祠ができたのは、惣五郎の名誉回復が成り、事跡が広く知られるようになった幕末1800年より後のことと思われませんが、松川入佐倉神社の起源となる祠は、寛文12年（1672年）以前に既に在り、それより百年以上も古いものなのです。



飯田市上飯田字實山（松川ダム左岸）の松川入佐倉神社

飯田藩にお預けとなっていた堀田正信は、息女の夭折や、惣五郎の事件などを気に病み、正信の体調を心配した夫人が脇坂藩の御典医だった中村玄俊に相談したところ、玄俊は、正信の気を静めるため惣五郎を祀ることを進言。早速、邸内に建てた小祠が、松川入佐倉神社の起源です。その後、正信が若狭小浜に預け替えになったとき、信仰心の厚かった玄俊が祠の下げ渡しを請い、許されて屋敷内に祀っていました。

玄俊は、脇坂家で550石の高禄を食んでいましたが、職を弟に譲り、松川左岸の羽場で新田開発に従事し、土着します。この頃、藩は新田開発を奨励し、対岸の切石で中西新田、須志新田、下流でも、今の永代橋付近で柿ノ木島新田などを開いています。この他にも伊賀良や川路、また上伊那でも大泉新田など多くの新田開発を行いました。



脇坂侯の新田開発による開墾地の一部を、切石上河原橋上流の対岸から望む。現在は住宅密集地となっているが、明治に至るまで中村家のみが所在していた。

今も飯田市羽場に在住しておられる、玄俊の末裔 中村和市氏から、「(医者で信頼されていた玄俊は)体が不自由で連れて行くことができなかった正信の息女を預かった」「開拓した羽場赤坂周辺には薬草が多くある」「元の屋敷は、現在住んでいる家から川寄り50mほどのところにあった」「玄佐井（「玄佐」は玄俊の戒名に因む尊称）の取水口は、上河原橋上流500m程にあるが、以前はそれより300m下流にあった」「井水の保護のため菖蒲が植えられていた名残があった」等々のお話を伺うことができました。

正徳5年（1715年）、玄俊の子 源左衛門のとき、いわゆる羊満水があ

りました。松川が大氾濫し、中村家も、開墾した数町歩の田畑もろとも屋敷など全財産を流失したのですが、祠は奇跡的に無傷で、300m程下流の中瀬に漂着。そのままここに安置されました。その後、この付近一帯は「佐倉瀬」呼ばれるようになったことから、当時、すでに祠は「佐倉様」として知られていたと思われます。現在でも、羽場及び切石の両岸に「佐倉瀬」の名称が残っています。

この「佐倉様」は、松川入りの山仕事に通う人達が危難水難避けの神として崇めていましたが、伐木が盛んになった明治17年(1884年)頃、松川右岸の押ノ澤山で落石が多かったため関係者が相談し、作業小屋からも遙拝(遠くから拝むこと)できるよう対岸の現在地に小祠を移転しました。幸い人々の危難は避けられ、無事が続いたことから年々祭祀が盛んになり、神殿も立派になっていきました。

明治27年(1894年)、飯田市鼎の浦野房弥が関係者代表として東勝寺に代参し、初めて真相を知るまで、信仰こそ集めたものの、どのような御神体が祀られているのか忘れ去られていたと伝えられていますが、この神社の正殿には、「徳満院涼風道閑居士」と刻まれた高さ1m余りの石塔と、小祠に収められた宗吾霊像が安置されています。

史跡、伝承は、郷土の誇りとして、大切に守っていききたいものです。

(資料、脚注等)

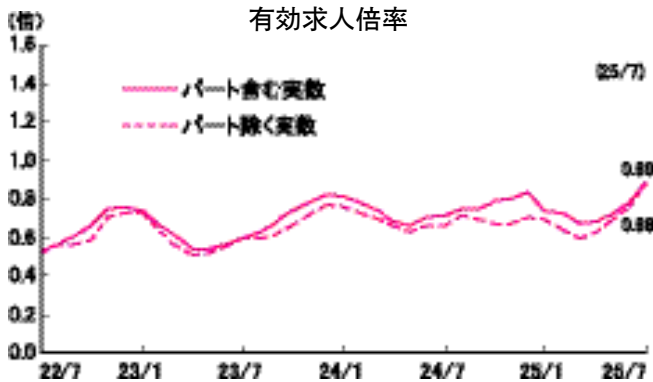
- * 1 研究発表資料 「佐倉信仰を考える」 中平歴史研究会
構成員：鋤柄惟夫・西村定美・五十君親彦・松澤祥二・戸崎 敬・川口充央
- * 2 平成24年の飯伊全体の「延べ」観光客数は384万人。「延べ」ではない観光客数は、東勝寺の参詣者数程度ではないかと思われる。
- * 3 「南山一揆：南山騒動」 安政6年(1859年)の事件。南山郷は現在の飯田市龍江、千代、上久堅の一部、泰阜村一部の36村で構成されていた。年貢の取り立てを不服として一揆を起こした。当時、南山郷は天領から奥州白河藩領に移行されたが、年貢負担の軽い天領復帰への願いもあったと言われている。当時は1戸で1村を構成することもあり、南山郷36村中、10戸以下の村が11村ある。南山郷36村の総戸数は1073戸、人口約6千人。
- * 次の各氏からご教示及び資料提供を頂きました。
飯田市羽場 中村和市(中村玄俊の末裔)
飯田市鼎上山 原 宏
飯田市羽場 馬場田幸雄(羽場の昔を学ぶ会会長)
飯田市正永町 丹羽 隆(松川入佐倉神社総代)
飯田市羽場 吉澤利久(同羽場支部長)
- * 宗吾霊堂(鳴鐘山東勝寺)公式ウェブサイト
- * 「松川入宗吾霊社縁起詳説」 編者：山田居麓(飯田市上飯田字實山佐倉神社の縁起)
- * 「脇坂候と伊那谷文化」 編纂者：村沢武夫
- * 郷土誌「伊那」1968.10月号「飯田台地の水利 一五」 著者：筒井泰蔵
- * 「羽場曙友会誌」 編集：羽場曙友会誌編纂委員会

執筆者 吉川 芳夫(よしかわ よしお)：平成17年3月定年退職まで長野県職員。40年間余のほとんどを商工行政に従事。この間、飯田信用金庫ほか、関係行政機関、商工団体の協力を得て「飯田下伊那経済自立化研究会」を主宰。ゼロ予算事業ながら、経済産業省の04年版通商白書に「我が国における地域経済構造分析の先進事例」として評価紹介された。平成22年4月からNPO法人しんきん南信州地域研究所 主席研究員。一昨年は地域の人口問題を分析して報告。南信州新聞に「グラフで見る経済」を連載中。

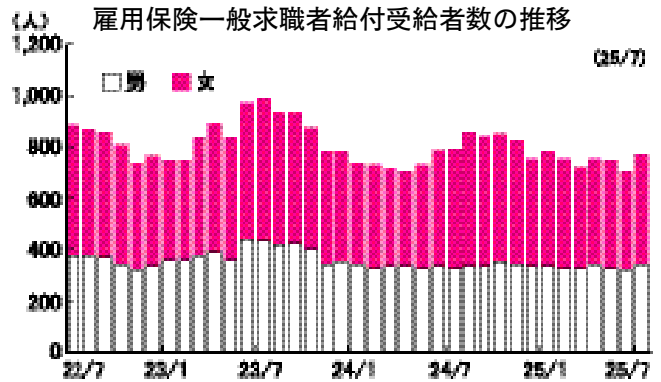
「NPO法人 しんきん南信州地域研究所」は、地域の情勢分析や政策提言、情報発信などを目指して、飯田信用金庫を主体として設立された地域シンクタンクです。地域の皆様の交流の場としても広く解放しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

■所在地 長野県飯田市知久町1-9 まちカンビル2002
■在籍研究員 井上 弘司 吉川 芳夫 安藤 隆一
■TEL 0265-59-7701
■FAX 0265-59-7701
■E-mail think-t@mis.janis.or.jp

雇用の状況



7月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で0.89倍と前月比0.11ポイント上昇した。パートを除く実数も0.88倍で前月から0.12ポイント上昇している。



7月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は30人増加、女性も32人増加しており、全体では764人と前月から62人増加している。

(資料：飯田公共職業安定所)

しんきん「相続・事業承継 定例無料相談会」のご案内

しんきん

相続・事業承継定例無料相談会

次のような方に、お勧めします！

○法定相続分とは異なる財産の与え方をしたい方

- 面倒を見てくれた方に、多めの財産を渡したい。
- 財産を渡したくない相続人がいる。

○自社株や不動産のオーナーで、相続人が複数いる方

- 株や不動産を後継者に渡したい場合は、遺言がないと争いが起こる恐れがあります。
- お子様たちは兄弟仲が良くても、その配偶者が口を挟み争いとなる場合があります。

！遺産分割協議がまとまらない場合！

- ★亡くなった方の預金が凍結され、おろせない★
- ★相続税申告で配偶者控除等の特例が受けられない★
- ★最悪の場合、相続人同士が長期間裁判で争う★可能性がります。

《他にも》

- 相続で揉める可能性はないが、面倒な手続きを任せたい方
- 法律や税金のことを専門家に相談しながら遺言を作成したい方
- 公正証書遺言を作成したいが、頼める証人2名がいない方
お勧めします。

飯田信用金庫では株式会社 朝日信託と信託業務・相続関連業務に関する業務提携を締結し、お客様の財産管理・相続・事業承継等の問題を解決できる専門家をご紹介します。

問い合わせ先：飯田信用金庫 本支店 または 経営相談所 (TEL 0265-53-5811) まで

本誌は、当相談所が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫

経営相談所 〒395-0044 飯田市本町1-2 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物由来インキ
[フナクリス110]を使用しました。

再生紙を
使用しています

《開催日》 毎月第4金曜日(原則)

《相談対応時間》 10:00 ~ 17:00

《開催場所》 本店ビル4F 経営相談所

※事前予約が必要となります。詳しくは当金庫窓口または営業係までお問い合わせください。

遺言信託サービス

お客様の遺言書の作成サポート、遺言書の保管・管理、遺言の執行を行うサービスです。

《対象となるお客様》

- ◎円満で円滑な相続を実現し、円満な家族関係を維持したい方
- ◎法定相続分どおりの遺産分割でなく、実情に合わせた合理的な遺産分割をしたい方
- ◎法定相続人以外にも遺産を分けてあげたい方 など

費用

- | | |
|-----------|----------------------|
| ○各種ご相談 無料 | ○遺言執行報酬 |
| ○遺言信託費用 | 財産額5千万円以下の部分 |
| 遺言書 基本保管料 | 1.68% |
| 84,000円 | (当金庫預金・投資信託などは0.21%) |
| 年間保管料 無料 | ただし、最低報酬 84万円 |

業務提携先：株式会社 朝日信託

本店：東京都千代田区霞ヶ関3丁目2番5号 霞ヶ関ビル19階
TEL：03-3580-3471

※朝日信託は、法律・税務・財務の専門集団である朝日中央総合法律経済事業所グループを母体として設立された信託会社です。

当金庫はお客様のご要望を朝日信託へご紹介させていただく業務を行っていますが、代理店としての業務は行っていません。